

林業総合センター職員が、マツタケに関する研究論文で「日本菌学会平塚賞」を受賞します

長野県のマツタケに関する研究成果論文が、国際学術誌「Mycoscience※」に掲載されました。さらに、本論文は将来にわたり国際的に高い評価を受けることが期待されるとして、「日本菌学会平塚賞^{ひらつかしやう}」を受賞することとなりました。

※(一社)日本菌学会の発行する公式学術誌。国際的な評価が高く、世界中の研究者に読まれている。

受賞名 日本菌学会平塚賞

平塚賞とは

平塚直秀博士(明治生まれの菌学者)の名を冠した賞で、国際学術誌である「Mycoscience」に掲載された論文の中から、将来にわたり国際的に高い評価が期待される研究論文を毎年1~2件選出し、授与されるものです。(日本菌学会ホームページより(一部改変))

<https://www.mycology-jp.org/html/awards.html> (日本菌学会ホームページ)



受賞論文

論文題目

Long-term effects of forest management on the dynamics of *Tricholoma matsutake* harvest over 41 years in a *Pinus densiflora* forest in Nagano Prefecture, Japan

長野県のアカマツ林における41年間のマツタケ収穫動態に及ぼす林地施業の長期的影響

著者

Hitoshi Furukawa^{a*}, Koudai Tokuoka^b, Aira Mizuno^b, Kazuhiro Katagiri^a, Kazuhiko Masuno^a, Yujiro Tanaka^a, Shinjiro Oya^a, Akiyoshi Yamada^{b,c} (a 長野県林業総合センター b 信州大学農学部 c 信州大学山岳科学研究拠点)

https://www.jstage.jst.go.jp/article/mycosci/65/6/65_MYC649/_article#supplimentary-materials-wrap

(論文電子版掲載ページ)

筆頭責任著者 長野県林業総合センター 特産部長 ^{ふるかわ ひとし} 古川 仁

論文概要等

マツタケ山の継続的な森林整備を行うことで、マツタケの生産量を維持できることは経験上知られていましたが、本研究において初めて科学的に証明しました。41年間にわたる膨大なデータを基に、先行研究にない森林整備未整備区と比較をしながら考察している点が高く評価されました。

授賞式 令和8年5月16日(土) @筑波大学 春日講堂
(日本菌学会70周年記念大会内で実施)

授賞式の詳細は以下及び右の二次元コードよりご確認ください。



<https://sites.google.com/view/msj70thcongress> (日本菌学会70周年記念大会HP)

その他 研究論文に関する取材問合せは以下へお願いします。

長野県林業総合センター 特産部 古川 0263-52-0600 (代表)



長野県産木材のある
穏やかな暮らしをマークにしました

つなぐ木のいのち

NAGANO WOOD PRODUCT



(問合せ先)

担当 林務部信州の木活用課林業経営支援係 篠原、田中

電話 (直通)026-235-7274
(代表)026-232-0111 (内線)3235

FAX 026-235-7364

電子メール ringyo@pref.nagano.lg.jp